

福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年7月21日)

【件名】

- 令和4年度第1回鳥取県総合教育会議の開催結果について
(総合教育推進課) . . . 2

子育て・人財局

令和4年度第1回鳥取県総合教育会議の開催結果について

令和4年7月21日
総合教育推進課
教育総務課

令和4年度第1回の鳥取県総合教育会議を開催しましたので、その結果を報告します。

1 日時・場所

- (1) 日時 令和4年7月15日(金) 午前10時から11時30分まで
(2) 場所 鳥取県庁 特別会議室等 オンライン会議により実施

2 出席者 知事、有識者委員、教育委員会(教育長、教育委員)

〈有識者委員〉

氏名	所属	氏名	所属
石原 太一	進路指導塾ドリームラーナーズ 代表	福壽みどり	前 鳥取県PTA 協議会会長
大羽 沢子	鳥取大学医学附属病院ワークライフバランス支援センター 特任助教	堀江 愛	伯耆町教育委員会・大山町教育委員会 スクールソーシャルワーカー
坂本 哲	株式会社アクシス 代表取締役	馬淵 牧子	Fitness Ja-んぐる 専属トレーナー
永見 真	学校法人翔英学園 米子北斗中学校・高等学校 校長	山下 誉議	英会話イーオン鳥取校 講師

3 概要

(1) 意見交換のテーマ

- ア 令和3年度鳥取県の「教育に関する大綱」(第二編)の評価について 資料1
イ 学力向上について 資料2-1、2-2、2-3
ウ 不登校対応について 資料3
エ 令和3年度鳥取県青少年育成意識調査の結果から見える課題について 資料4

■指標の達成状況

○達成及び概ね達成したものは74.7%(62/83)であった(目標値に対して100%以上を「達成」、90%以上を「概ね達成」としている)。ただし、目標を下回ったものもあり、引き続き改善に向けて取り組む必要がある。

〈達成できた主な指標〉

- ・難関国公立大学の合格者数
- ・特別支援学校高等部(専攻科含む)卒業生の(1年後)職場定着率
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の割合

〈目標を下回った主な指標〉

- ・県立高校(全日制課程)の定員に対する入学者数の割合
- ・県外大学進学者の県内就職率(県内出身者が多い大学)
- ・不登校出現率
- ・時間外業務が月45時間、年間360時間を超える教職員数
- ・国語・算数(数学)の平均正答率が全国平均を上回る

(2) 主な意見

ア 学力向上について

〈有識者委員の主な意見〉

- ・個人の学力観を養うためにも、個人カルテは重要であり、個人情報に留意しながら、児童生徒一人一人に合わせた指導内容になるように、活用していただきたい。
- ・生徒が一番多く時間を過ごすのは授業時間であり、その時間の改善が一番効果的だと思う。研修パッケージとして「モデル授業」の動画を作成するのは良いが、現場での活用が徹底されるように見ていく必要がある。
- ・全体として評価するときには現行のようなパーセンテージが良いと思うが、現場の先生方の視点からすると、自分がどう頑張ればよいのかが分かり辛い。現場に落とし込んでいくためには、管理職が全体評価を踏まえて、学校ないしクラス単位の適切な数値目標を設定することが効果的。クラス担任や科目専科の先生方と数値目標に向けて進んでいけるような目標設定をお願いしたい。
- ・中学、高校と上がっていくにつれて、英語が嫌いだという生徒が増えるように感じるが、苦手意識を持たないよう、小学校時点で楽しい授業をしていただきたい。

〈教育委員の主な意見〉

- ・「算数・数学の授業がわかる」「自分で計画立てて勉強している」児童生徒の割合がアップしているのは非常に良いが、全国学力テストの結果への反映にはつながっていないことは指導力の問題であり、一層の授業改善を進めていかねばならないということ。個人カルテの作成により、児童生徒一人ひとりが他者と比べるのではなく、自分自身の状況を理解し、学ぶ意欲が高まるような先生の声掛け、指導ができれば良い。
- ・鳥取版の学力学習状況調査の注目すべき点は、自分の伸びしろが測れるところ。他者に評価を委ねるのではなく、自分で自分を評価していく能力をつけていくことが、学び、人間の成長にとって、一番重要なことで

ある。

- ・基礎基本は一定程度あるが、今求められる力は考えて試行して自分で表現していくこと。その辺りが十分ではないというところが学力低下のポイントになってきている。それに対応する授業改善を進めていきたい。

イ いじめ・不登校問題について

<有識者委員の主な意見>

- ・学校以外にも多様な居場所があるようだが、こういった場所もあるという情報が、困り感を抱える保護者や児童生徒に共有されることが必要。多様な選択肢があることが、先生からでもスクールソーシャルワーカーからでも伝わるように役割分担され、不安を抱える保護者や児童生徒に届くようもっと発信されるべき。
- ・いじめ・不登校総合対策センター等がアウトリーチの方法により、学校現場での適切な支援をサポートするとともに、現場の先生方への後方支援をしていただくことも非常に大事である。
- ・学校の中で、何を大事にし、子どもたちの何を伸ばしどう育てるのかという目標を共有し、教室が子どもたちにとって気持ちよく過ごせる場所、わからないことを「わからない」と言える安心できる場所になれば、自ずと学力も伸びていくのではないか。
- ・「なぜ不登校か？」と考えるより、不登校である「今」を受け止め、伴走することが必要だが、大人は経験値があるゆえ、不安が先に立ち、先に先に走りがちとなる。支援者が安心するための支援とならないよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもがどうしたいのか、どうなりたいのかを一緒に考え、伴走できるような支援のあり方ができれば良い。

<教育委員の主な意見>

- ・不登校の出現率の高さが気がかり。国の調査結果で、「学校に行き辛いと感じ始めたきっかけ」は多岐にわたるが、「先生のこと」や「友達のこと」に起因する割合が多い。このことは、子どもたちに関わる教員の学級経営力が問われている。鳥取県青少年育成意識調査の結果でも、自死を考えた経験や、いじめの被害加害経験があると答えた子どもがおり、教員が子どもたち一人ひとりを注意深く見守り、変化を見逃さないことが重要である。
- ・小学校中学年ぐらいから、自分を客観化して自分の能力、得意なこと、或いは苦手なことを認識していく中で、自分を伸ばしていく、自分を世界でただ一つのものとして大事にし、誇り、それを通じて、他者と交歓していく、そういう人間をどうやって育てていくかということが一番大事なことである。

ウ 県立高校の魅力化について

<教育委員の主な意見>

- ・定員を確保するために、入口（入試）の改革、中身（カリキュラム、教育方法、施設設備の充実等）の改革、出口（就労支援の充実）の改革が行われてきたが、これだけでは、減り続けている子どもの数への対応等ができない。高校の再編成ということが、今後課題とならざるを得ない。

エ 県内就職について

<有識者委員の主な意見>

- ・アプリ（「とりふる」）に登録することは成果とまでは言えず、利用が進まなければならない。学生の興味ある情報が仕入れられる情報源として、何らかの仕掛け、アプリを使いたくなるきっかけが必要。リアルな体験として学生が地元企業の経営者と交流し、トップの“ひととなり”を知り、魅力的な会社があるんだと興味を深めることが重要。公私問わず、先生方にはきっかけづくり、機会の紹介をお願いしたい。
- ・近年多くの学校が取り組んでいる探究学習で地域のことを学ぶ取組が実践されているので、今後はもっと早い時期から、この鳥取県に興味関心を寄せる児童生徒を増やしていけるのではないかと期待している。

<教育委員の主な意見>

- ・生徒自身が地域を知り、地元企業をよく知ることが重要であり、探究的な学習をより定着させていきたい。

オ 教職員の働き方について

<有識者委員の主な意見>

- ・生徒の下校後の、いわゆる「夕方から仕事」が改善されないので残業が減らないのだと思う。仕組みを抜本的に考え直すことが必要。“破壊的イノベーション”ともいわれるDXの概念で、「夕方から仕事」を抜本的に改革する必要がある。
- ・多忙で先生方の自己研鑽の時間を持ち辛いと感じる。「夕方から仕事」を改善することによって、先生方が自分で勉強する時間を確保でき、指導力の向上にも繋がる。
- ・働き方改革の取組により、どの程度先生方の負担軽減に繋がっているか。例えばこういうアプリを使うとこれだけ時間削減できるなど、一定の提示がないと、なかなか現場の先生には受け入れられないのではないかと。

<教育委員の主な意見>

- ・全校統一の業務支援システムを導入しており、これによって時間外が削減されたというデータも出ている。そのような実感できる取組に繋げていながら、子どもと向き合う時間の充実に繋げていきたい。

(3) 知事総括

- ・授業の改善だとか、或いは一人ひとりに寄り添った教育など、様々な学校に関わる問題をみんなで一緒に考えて、少しでも子どもたちにとって良い環境ができれば良いと思う。
- ・頂いた御意見をしっかりと吸収をしながら、教育委員会の方でも受けとめていただいて、教育改革に繋げてほしい。我々もフォローアップをさせていただきたい。